

大腸がんスクリーニング受診率の社会経済的格差には リマインダーレターの送付が効果あり

英国では国家的な大腸がんスクリーニングプログラムが導入されているが、受診状況は社会経済的状況により差が生じている。そこで本研究では、大腸がんスクリーニングプログラムの受診に関して、社会経済的格差を低減させるための4つの介入の効果について検討した。

英国のスクリーニング適格者（60 - 74 歳の男女）を対象とし、4つのクラスター無作為試験を行った。4試験では、それぞれ標準的な情報提供と、標準的な情報提供+補足的介入を行い比較した。補足的介入の内容は次のとおり：試験1（2012年11月実施）では、スクリーニング情報を分かりやすくまとめた冊子を配布（163,523例）；試験2（2012年3月実施）では、読み書き能力に乏しい人に有効とされているナラティブインフォメーションを活用した体験談の冊子を配布（150,417例）；試験3（2013年6月実施）では、かかりつけ医によるプログラム参加推奨の招待状を配布（265,434例）；試験4（2013年7~8月実施）では、スクリーニングの申込を再度促すバナー付きリマインダーレターの送付（168,480例）とした。結果、試験1と試験2では受診改善の効果が全体的にも社会経済的格差についても認められなかった。試験3では、社会経済的格差に対しては効果が認められなかったが、全体的な受診率は改善した（補正後オッズ比 1.07、 $p < 0.0001$ ）。試験4では、有意な相互作用が社会経済的格差について認められ（ $p = 0.005$ ）、最低五分位の貧困度群（補正後オッズ比：1.00、 $p = 0.98$ ）よりも、最高五分位の貧困度群（同：1.11、 $p = 0.003$ ）で効果が高かった。全体的な受診率も有意に上昇した（同：1.07、 $p = 0.001$ ）。

したがって、4つのエビデンスのある介入のうち、スクリーニングの社会経済的格差を低減するにはリマインダーレターが最も効果的であることが示された。しかし、さらなる格差の改善がリマインダーレターだけで図れるのかは検討する必要がある。

出典：The Lancet. Published online Dec 8, 2015; pii: S0140-6736(15)01154-X